

特集

環境基本計画策定のための市民等意識調査結果

守る、豊かな自然とみんなの暮らし
環境にやさしい街づくりをめざして

平成7年12月から市民2千人をはじめ、児童、事業者を対象として実施した「環境基本計画のための市民等意識調査」の結果がまとまりましたので、ご報告いたします。
この調査結果は、「うるおいとやすらぎがあり、誰もが住み続けたいと思うまちにしたい。」という思いを形にするために、平成9年を目標に策定する「環境基本計画」の基礎資料の一部として活用させていただきます。

みなさんの「環境」についての考えかた

市では、現在いろいろな形で環境保全と整備に努めています。緑の保全、河川の浄化をはじめ、地域の環境改善にも力を入れています。今後さらに内容の充実を図るために、先般、市民皆さんが生活している身近な環境について、どのように考えていらっしゃるかをアンケートをお願いしました。アンケートの内容を分析し、今後の環境改善に生かしていきたいと考えています。
今回の調査は、成人、小学校5年生、事業者を対象として、周辺環境の状況、環境にかかわる行動などについて回答をいただきました。(表1)

おとなも子どもも約半数が「住みよい」と思うまち、狭山市

狭山市に住んでいるかたがたが、どんな環境で暮らしているのか、まず「今住んでいるまわりの環境を住みよいと感じていますか」という質問に対し、成人、児童ともに約半数のかたが「住みよい」と答えていて、「住みにくい」と答えたかたを大きく上回っています。(グラフA-1、2)
それでは、回答をいただいたかたがたは、具体的にどんなところをどう感じているのでしょうか。
今住んでいる周りの環境についての具体的な項目として、「緑が多い」、



市民の皆さんが、狭山市のよいところとして挙げている「緑が多く自然に親しめるまち」をみんなで守っていききたいですね。(智光山公園の雑木林)

「小鳥や虫の声が聞こえる」、「自然に親しむ場所がある」という問いに対し、多数のかたが「はい」と答えています。(グラフB-1、2、3)
このことで、狭山市にお住まいのかたは、身近な自然環境についてある程度満足していることがわかります。

が半数以上あり、「空き地に不法投棄が多い」については、「はい」が42.2%に対して「いいえ」が30.8%という結果でした。(グラフC-1、2)
身近な自然環境には満足はしているが、道路の散乱ごみ、空き地に不法投棄が多いことや不満が見られるようです。

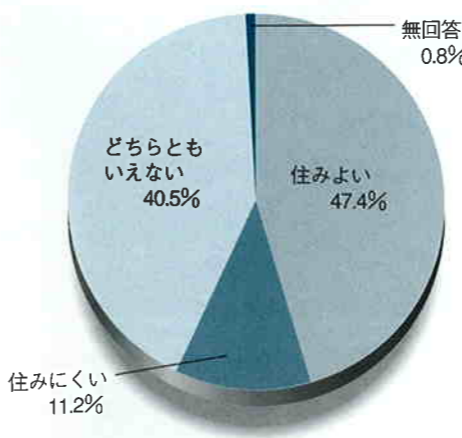
環境をよくするためには生活の多少の不便さは我慢する
それでは、環境をよくするために、皆さんはどんな心掛けをしているのでしょうか。環境の保全と生活の便利さのどちらが大切かという質問に対して、成人の約71%、児童の約83%が「環境をよくするためには、生活が少々不便でもやむをえない」と回答しています。(グラフD-1、2)
生活の上で多少の不便さや経済活動でのコストの増加を我慢しても、環境をよりよくしたいという意識が高いことがわかりました。
さて、市民の皆さんの考えがわかりましたが、行政側に、環境をよくするために力を入れてほしいことは、どんなことなのでしょう。3つまで答えていただいたところ、「身近な自然の保護・保全」が757件で最も多く、ついで「ゴミの減量やリサイクルの推進」が481件、交通公害対策が410件という結果でした。(グラフE)

【表1】各調査の実施方法などについて

調査対象	市民	児童	事業者
対象者の条件	市内在住成人市民	小学校5年生児童(9校選出)	市内事業者
対象者数	2,000人	982人	22社(事業別に2社程度)
調査方法	郵送(返信用封筒を同封)	各小学校で実施	郵送・訪問
有効回収率	66.8%	95.3%	100.0%

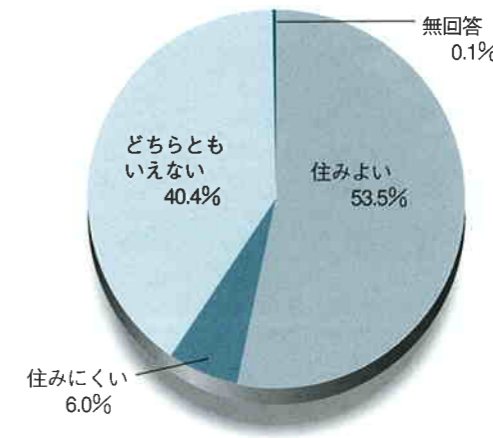
【A-1】成人

今のお住まいの付近の環境を住みよいと感じていますか

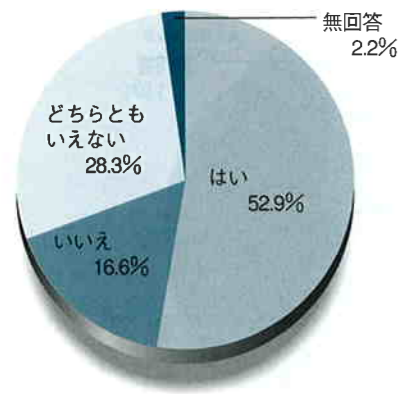


【A-2】児童

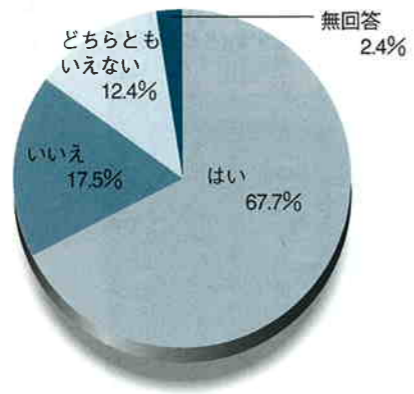
今の家のまわりの環境を住みよいと感じていますか



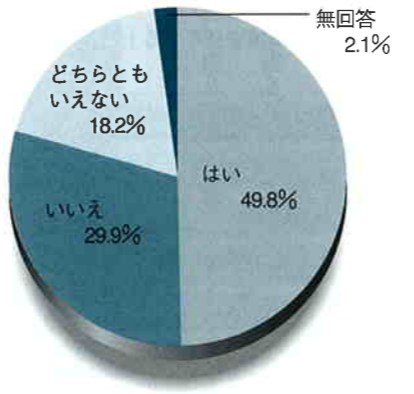
【B-1】成人 緑が多い



【B-2】小鳥や虫の声が聞こえる



【B-3】自然に親しむ場所がある



【C-1】成人 空き地に不法投棄が多い



【C-2】道路にポイ捨てが多い

